令和４年度米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

１．日　時　　令和５年３月３日（金）１３：３０～１５：３０

２．場　所　　米子工業高等専門学校　大会議室

３．出席者　【委　員】

河　田　康　志（議長）（鳥取大学理事・副学長（研究担当、ＩＴ担当））

岩　佐　健　司（津山工業高等専門学校長）

酒　井　信　彦（鳥取県教育委員会事務局・参事監兼高等学校課長）

金　川　朋　史（鳥取県中学校校長会会長・米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校長）

岡　村　整　諮（公益財団法人鳥取県産業振興機構理事長）

藤　田　博　美（鳥取県子育て・人財局総合教育推進課長）

角　　正　樹（株式会社NTTデータユニバーシティ
プロジェクトマネジメント最適化センター　フェロー）

廣　野　貴　志（米子工業高等専門学校後援会会長）

大　谷　文　雄（米子工業高等専門学校同窓会会長）

【米子工業高等専門学校】

寺　西　恒　宣（校長）

新　田　陽　一（副校長・校長補佐（教務））

中　山　繁　生（校長補佐（学生））

青　砥　正　彦（校長補佐（寮務））

高　増　佳　子（校長補佐（総務））

青　木　　薫（校長補佐（企画））

松　本　正　己（校長補佐（研究・地域連携））

小　松　圭　二（事務部長）

重　松　良　昭（総務課長心得）

坂　野　豊　和（学生課長）

【説明者】

高　増　佳　子（校長補佐（総務））

※令和４年度実施機構監事監査について

※令和４年度 年度計画及び自己点検・評価報告について

中　山　繁　生（校長補佐（学生））

※令和４年度　いじめ防止プログラムについて

４．欠席者　　八　幡　泰　治（米子市総合政策部長）

守　谷　光　広（米子工業高等専門学校振興協力会会長）

５．議　事

① 令和４年度実施　機構監事監査について

② 令和４年度　年度計画及び自己点検・評価報告について

③ その他（令和４年度　いじめ防止プログラムについて）

６．校長挨拶

開会にあたり寺西校長より、入学試験がおかげ様で順調に進んでいる。鳥取県内のみならず県外の学生も受験ができるようにＷＥＢ出願制度および最寄り地受験制度を採って実施し、その結果県外からの志願者が大幅に増えた旨の報告を行うとともに、評議員の皆様より貴重なご意見をいただきたい旨の依頼をもって開会の挨拶とした。

７．出席者自己紹介及び配布資料確認

８．議長選出

総務課長（司会）から、評議員会の会長を委員の互選によって選出する依頼があり、委員から河田鳥取大学理事・副学長（研究担当、ＩＴ担当）が推薦され、異議なしで河田鳥取大学理事・副学長（研究担当、ＩＴ担当）を会長に選出した。

９．議　事

①令和４年度実施　機構監事監査について

令和４年度実施の機構監事監査について、資料に基づき高増校長補佐（総務）から概要の説明があった。

《質疑応答・意見交換》

◆２年前に学科改組を行ったのが大きな特徴。今ちょうど２年経ったが、状況はどうか。

→（新田校長補佐）まず入試の状況（倍率）は、令和３年度から令和４年度は上昇傾向にあったが、今回令和５年度は下降した。その原因は調査中ではあるが、オープンキャンパスおよび学校見学会について、コロナ禍において試行錯誤をして実施しているが、どうしても規模を縮小せざるを得ず、中学生の興味関心を引く力が弱まってしまったのではと推測する。

また、寮の改修工事を予定しており、一時的に収容人数が減る。そのため希望しても入寮できない旨を中学校に案内したため敬遠された可能性がある。

２年生からのコース分けについては、１コース定員４０名を基本としているが、なるべく学生の希望に沿えるように対応している。学生には希望アンケートを年５回取っており、年４回の試験の結果等と照合して決定している。

どうしても希望が叶わなかった学生については、一定の基準を満たした学生には２年生、３年生の際に転コース制度を利用することも可能としている。

◆ＩＲへの取り組みがしっかりしているという印象を受けた。また、合同教員室を設けているのは全国的にも珍しいと思う。

◆（寺西校長より意見を求められて）中学校の立場から志願者数減少の件を考察すると、これまでの５学科制の時は中学生なりにやりたいことや意志を持っている生徒が志望している印象だった。それが学科改組により１学科５コースとなったことで、生徒はどうしても表面的な部分を見て進路を決めていくので、先述のような生徒に迷いが生じているように感じた。

また、はっきりとした目標がない生徒はとりあえず普通科を選ぶ傾向にある。

その他、様々な補助金の出ている私学を志願する傾向もある。

◆一つのコースを選んだとしても、例えば「建築」と言っても様々な分野がある。そういった多種多様な分野に対してフォローできるような体制を整えたり、他高専との情報交換を行ったりはしているか。

→（寺西校長）学科改組にあたり、そのような体制整備のため、他高専や県内中学校等と情報交換を行ってきた。その結果、仰るように複眼的視野を持った人材を育てることと、コース分けは内申点を見るのではなく、高専に入学してからの成績を見て判断することも大切だとのことから現在に至っている。

なお、今回の倍率低下については真摯に受け止め、その要因を探っているが、外的要因の一つとして中学生人口の減少もあるのではないかと思う。

◆進路について明確な意志がある学生には、総合工学科というのはコース分けとその先に向けて勉強を続けるモチベーションに繋がっていると思う。

→（岩佐委員）（廣野委員の意見に補足して）昔から高専を選ぶ学生は明確な意志がある者と、とりあえず入学してからゆっくり考える者と二極化しているが、津山高専では意志が明確な学生については推薦の受験を勧めている。推薦で合格した学生については２年生以降も成績に左右されることなく希望のコースを選べるようにしている。

ただし、意識が変わることもあるので、条件によっては転科も認めている。

◆コース選択のフォローについて、実際に専門職に就いたOB・OGの話を聞く機会を作ると参考になると思う。

◆１学年末のコース希望アンケートの際、前回から変更した理由に「授業を受講して変更」と回答している学生がいるが、理由は何か（面白かったといったポジティブなものか、思っていたのと違ったといったネガティブなものか）。

→（新田校長補佐）自由記述の欄には楽しかった、面白かったというどちらかというとポジティブなコメントが多かったように記憶している。

◆県立高校においても倍率低下、定員割れが深刻な課題となっているが、高専では、以前は学生が小学校、中学校に出向いて教える、といったことをしていたと思うが、現状はどうか。

→（松本校長補佐）令和４年度は鳥取県のコロナ警報が出た場合を除き、コロナ前と同程度の公開講座、出前講座等を実施した。また、小学生高学年、中学生を対象にジュニアドクター育成塾を開講し、科学に対して興味関心を持ってもらえるような活動を実施している。

◆（人気低下の傾向がある）機械系の今後をどう考えているか。
また、２年後は専攻科にも関係してくるが、専攻科もカリキュラム変更を予定しているのか。

→（新田校長補佐）今年の１年生の希望は比較的分散している。また、機械系の新任教員が入っているので、従来のイメージを払拭するような魅力発信をしてもらえるのではないかと考えている。
専攻科についても総合工学科に合わせたカリキュラムになるよう、準備に着手したところ。

◆PDCAサイクルについて、学生にPDCAサイクルを当てはめると、将来の技術者となるためには幅広く勉強をしなければならないところ、どうしてもC（チェック＝学力テスト）のためのD（ドゥ＝勉強）となりがちになる。そうなるとテストに出るところだけ、受験対策のためだけの勉強になってしまうので、チェックをする際のエビデンスを予め決めておくとよい。日常的にD（ドゥ＝勉強）をしっかりしてエビデンスを貯めておき、それを提出させるようにすると、【CのためだけにDをする】という構図が打破できる。また、不正防止にもつながる。

→（青木校長補佐）（IR活動についての一連の説明の後）【CのためのD】というところで、最近は最終的な試験だけでC（チェック）せず、演習を重ねてその結果と試験の結果を総合的に見て判断するようにしている。今後、その効果について検証していく。
（合同教員室についての質問もあったので、概要の説明）

→IRについて、教育機関においては教育の質保証の観点からデータの検証・蓄積していくことは非常に重要だと思う。また、それらの蓄積されたデータを活用して今後に活かしていくことも大切。

◆（米子高専が）STEAM教育の地域拠点を目指しているということで、実践校として受けたことがある。結果的に生徒には評判が良かったが、中学校（小学校も）では人員が限られており、準備にかかる負担が大きかったので、お互いの実態を考慮して実施できればと思

う。取り組みとしては良いものであるが、頻繁には受けられないと思った。

→（寺西校長）こういった生の声を聞けるのは非常に貴重。現状が理解できた。大変申し訳なかった。今後はそういった意見も踏まえて工夫していきたい。

◆本校では小学生、中学生向けに理系に興味を持ってもらえるような取り組みを行ってきているが、機械系、工業系の専門分野の人口が減少傾向にあることを受け、他に具体的に何かできることがないかご提案があれば指南願いたい。

→小学生・中学生向けにパンフレット等でPRしているが、その使い方、反響についてはまだ情報収集に尽力しているところ。小学校、中学校の先生方とコミュニケーションを取ることで生の声が聞けると思う。高専ともそういったことを一緒にできればと考えている。

→大企業と中小企業のエンジニアが互いに協力して課題を解決していく「スマートものづくりエキスパート育成スクール」という取り組みを行っており、双方にメリットがあるようなものになっている。これに高専の学生および教員も参画できれば参考になるのではと考えている。また、バイオ分野について、県内の他の高校の生徒向けに研修を行っている。高専においても提案があれば受け入れ可能。

→若い世代に興味を持ってもらえるような機会を増やしていきたいと考えている。

② 令和４年度　年度計画及び自己点検・評価報告について

令和４年度　年度計画及び自己点検・評価報告について、資料に基づき高増校長補佐（総務）から概要の説明があった。

《質疑応答・意見交換》

◆コロナの影響について、補足説明をお願いしたい。

→（寺西校長）予定通り粛々と、一つ一つ乗り越えて実施してきた。ようやく出口が見えつつあるので、「トビタテ！留学JAPAN」関係の海外派遣も実施している。

その他の事業についても、コロナを理由にして何も身動きできないのではなく、工夫を凝らして実施してきた。県教育委員会、県子育て・人財局にこの場をお借りして御礼申し上げる。

◆令和４年度は第４期の中期目標期間の５年間のうち、４年目にあたる。来年度は第４期最後の１年となるが、第４期全体の目標に対してのチェックも必要となってくるがどう考えて

いるか。

→（寺西校長）５年目においては、今まで進めてきたことを粛々と実行することと、第５期に向けての準備を進めることが必要だと考えている。今、皆様に評価いただいていることを参考にして、計画を立てていきたい。

その上で、学科改組後の本校の在り方について検討する「将来構想検討委員会」というものを立ち上げることになり、本校の改善点の掘り起こし、組織の見直し等を行っていきたいと考えている。

③その他

令和４年度　いじめ防止プログラムについて、資料に基づき中山校長補佐（学生）から概要の説明があった。

《質疑応答・意見交換》

各委員から以下の質問・意見があった。

◆（資料のPDCAサイクルは）いじめ防止対策の制度としてはよいが、学生間のいじめをなくすように日常的に実行するならば「早期発見」が【C】で、「対処（応急措置）」が【A】となる。

◆いじめ防止プログラムについて、学生間はもちろんだが、教員-学生間、教員-教員間は想定しているか。また、ハラスメントの相談窓口といったものは別に設けているか。大学では学生間のいじめも一義的に「ハラスメント」として扱っている。

→（中山校長補佐）アンケートは「いじめ・ハラスメントアンケート」としており、教員-学生間にも対応している。

→（小松事務部長）ハラスメントについては「ハラスメント防止・対策委員会」を設けており、規則に基づいたフローが存在し、相談窓口を置いている。案件が発生したら、学生は学生相談室へ、教職員は相談員に相談することになっており、その後ハラスメント防止対策委員会において審議される。いじめはいじめ防止対策推進法に準じて対応している。

→（寺西校長）（これまでの回答に補足して）本校では規則に則り、いじめはいじめの定義があり、アンケート調査や面談等にて早期に発見・対応できるようにしている。

また、教職員間のハラスメントについても相談窓口を設け、面談等を通じて早期発見・対

応に努めている。事案が発生した場合は、内部の者だけでなく、第三者（専門家等）も含めて対応していく体制にしている。

◆近年人工知能の発展が目覚ましいが、これからの学校教育におけるAIとの付き合い方をどう考えているか。

→（新田校長補佐）例えばレポートをAIに書かせる、ということも可能な世の中になってきている。しかし、今はそれで凌げるかもしれないが、社会に出たときに困るのは自分だということを学生には伝えている。

◆AIやChatGPTを使いつつ自分なりの解釈も加える、という使い方もできるかと。ただ、論文を書く際などにおいて、AIやChatGPTが出した文章をそのまま載せると引用元が不明となり、下手をすると著名な先生の論文を流用してしまうといった危険性も出てくる。学生にはそういった意識を持ってもらうことも重要。

→（新田校長補佐）最近はアクティブ・ラーニングといった授業スタイルも取り入れており、真の実力を鍛える授業のやり方を模索していく必要がある。

◆DX化はどう考えているか。

→（寺西校長）DX化は学校運営側と、教育現場側と二つに分けられる。学校運営側については今が過渡期で、DX化するための負担が大きい段階で、できるところから進めている。

→（青木校長補佐）教育現場においては、学生からの申告ものをデジタル化した。システムについては外注せず、内製化している。授業については、新しいLMS（WebClass）を導入予定。会議についてはMicrosoftTeams上にて議事録等を公開・共有している。

→（寺西校長）「GIGAスクール構想」が全国的に動き出しているが、本校ではコロナ対策の遠隔授業への対応が早く、そのための教材作成、オンデマンド対応といったことを実施した。

１０．校長挨拶

閉会にあたり、各委員からの活発なご意見をいただいたことに感謝し、今後関係各所との連携を強化しながら地域に根差した教育を行っていきたい旨校長の挨拶とし、閉会となった。